

# 大谷など16地区の一部で拡大 公共下水道処理区域

## 接続はお早めに市指定工事店へ

市民のみなさんの清潔で快適な生活に必要な公共下水道の建設が進み、今回は大谷・社家地内など16地区の公共下水道の一部が完成、5月15日から利用できるようになりました。

新たに利用ができるのは、  
◆国分北二丁目一部  
◆国分北三丁目一部

◆国分南三丁目一部  
◆国分南四丁目一部  
◆大谷の一部  
◆下今泉の一部  
◆柏ヶ谷の一部  
◆東柏ヶ谷一丁目一部  
◆東柏ヶ谷二丁目一部  
◆東柏ヶ谷四丁目一部  
◆望地一丁目一部



◆望地二丁目一部  
◆中野の一部  
◆社家の一部  
◆杉久保の一部  
◆門沢橋の一部  
◆にお住まいのみなさんです。公共下水道が利用できるようになった方には、5月中旬に利用にあたってのパンプレットなどを戸別配布します。利用できる区域になると、く

み取り式トイレ」は3年以内に公共下水道に接続された「水洗トイレ」に改造し、し尿浄化槽は廃止して遅滞なく公共下水道に接続しなければなりません。また、台所や風呂など日常生活から生じる下水も公共下水道に接続するため、あわせて排水設備工事が必要となります。この排水設備工事は市の指定下水道工事店で行われます。水道工事店名簿から業者を選んで工事を依頼してください。

一定の要件を満たせば工事費の負担を軽減するための貸付あっせん制度、助成金制度が利用できます。希望される方は、指定下水道工事店を通して申請してください。

なお、公共下水道が利用できる区域になってから3年以内に排水設備工事を行いませんと、貸付あっせんなどの制度が利用できませんので、お早めに排水設備工事をされるようお願いいたします。



ペルーで再び活躍する救急車

「日本での役目は終わりましたが、ペルーでいつまでも人命救助に活躍し続けて欲しいですね」と、寄贈に携わった署員は話していました。

▽問い合わせ 下水道業務課 (内637)。  
▽問い合わせ 福祉総務課(内442)。

## 選挙管理委員会 平井委員長が辞任

選挙管理委員会委員長の平井庄一郎(ひらい・しょういちろう)72歳、中新田氏は、4月7日選挙管理委員会委員を辞任しました。

平井氏は、平成6年12月1日から選挙管理委員会委員として、平成7年2月17日からは、委員長として尽力されました。

## 新委員長に櫻井氏

4月19日に選挙管理委員会が開かれ、新委員長に櫻井直之(さくらい・なおゆき)53歳、上今泉氏を選出し、また、同職務代理者に細川榮(ほそかわ・さかえ)66歳、本郷氏が指定されました。

## 相澤氏が委員就任

平井氏の辞任により、4月8日付で、相澤康生(あいざわ・やすお)61歳、東柏ヶ谷氏が新委員に就任されました。

訂正：4月15日号2面中、市役所各階配置の表で、「生涯福祉課」とあるのは「障害福祉課」の誤りでした。

## 故・松村氏の蔵書を公開

日本石仏研究の第一人者であった故・松村雄介氏の蔵書を公開します。

松村雄介氏は平成10年に逝去された在野の石仏研究者です。最後の仕事は「海老名市史2資料編中世」石造物・金工品の執筆というご縁もあり、1200冊を超える蔵書が遺族の方から寄贈されました。



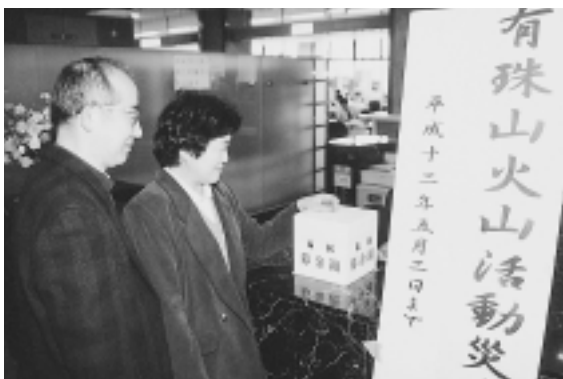
石仏研究中心に1200冊

その内容は石仏に関する書籍を中心に、歴史・民俗などの分野にわたって、海老名中学校の一教室で閲覧できますが、あらかじめ予約が必要です。図書目録は市役所1階の情報コーナーおよび5階の市史編さん室にあります。

閲覧・貸し出しを希望される方は、市史編さん室まで閲覧の希望日時または貸出希望の図書名をお申し出ください。閲覧・貸し出しは、平日(祝祭日を除く)の午前10時から午後4時の間で、1回あたりの閲覧は1時間以内。また、1回あたりの貸し出しは5冊まで、貸出期間は1カ月以内です。

▽問い合わせ 市史編さん室 (内292)。

## 有珠山噴火で 義援金募金を



少しでも被災地の方々の力に...

有珠山火山活動災害で被災された方への義援金活動として、5月2日までの間、市役所1階案内カウンターに募金箱を設置しています。4月17日

現在の募金額は5万2474円で、これらの義援金は日本赤十字社を通して被災地へ送られます。▽問い合わせ 福祉総務課(内442)。

## 知的障害者の 方が働くお店



あたたかい笑顔でお迎えます

4月10日、市役所1階東側玄関左に、ともしびショップぱれっとがオープンしました。このショップは、知的障害者の方が健常者と共に地域の中で生き生きと働くことができる拠点として、海老名市手をつなぐ育成会(小久保恭子会長・137人が設立したもの)が製作した工芸品・クッキーなども販売しています。

## 海老名むかしはなし

### 第456話 国分地区の 矢倉沢往還の付け替え

昔からの国分の幹線道路である矢倉沢往還は、途中大山にも向かうから大山街道、また江戸の青山に向かったから青山街道とも呼ばれ親しまれてきた。が、この道は国分を南北に走る相模横山を横断するため、地形に順応し蛇行を余儀なくしていた。そのため、幕末以後四回も部分的に付け替え工事が行われていた。今回はその第一次のものに触れてみたい。

国分はこの往還の人馬の荷物を積み替える継場として江戸時代のはじめから、主として東は下鶴間(現大和市)、西は厚木まで継立(継場の業務)の役目を果たしてきた。そのため村には以前人馬の賃金を定めた高札があったが、享保十六年(一七三二)と寛延二年(一七四九)の二回の大火災で失っていた。

ところがペリー来朝以来世は物情騒然となり、東海道往復の諸大名の中には、行列を組まずひそかにこの往還を通行するものも出てきた。また一般の通行人も増え、賃金や荷物の重量についてのトラブルが起こり、継場業務を行ってきた村民の負担も大きくなった。

そこで慶応元年(一八六五)十月、名主武藤友右衛門ら村役人十二名は連署して、失っていた高札の下げわたしと高札場設置の願書を時の勘定奉行小栗上野介忠順のもとへ提出した。これに対し翌二年二月十七日請願どおり許可され、六枚の高札案文の下げわたしがあつた。

案文は①悪事禁止、②金銭売買、③火事その他、④キリシタン禁制、⑤公用駅馬に関する事、⑥一般通行人の運賃に関する事であった。幸い⑥については高札一枚が残っていて、温故館に展示してあるのでご覧いただければと思う。

### 高札の所蔵館温故

その大きさは、中央の幅五十五・五寸、長さ二百十八・五寸もの堂々たるもので、最初に「定」、最後に「奉行」と筆太に墨書してあり、上意下達の権威が感じられる。

一方これを掲げる高札所は、高さ丈三寸(約三三寸)、長さ丈八尺(約三・三三寸)、横七尺(約二・一尺)で、大工の手間五十九人を要してこの年の六月、国分辻に建設した。

矢倉沢往還は、この高札場の下から南方山際を通り、国分寺の石段下に至り、直角に右手に折れて大けやき脇に出、そこでまた左方に曲がるというややこしき、不向きであった。それで高札場の整備に伴い、必然的に道路付け替えの要望が起きたらしい。付け替え道路は、高札場の下から約三十以下り、それから大けやき脇まで一直線に結ぶというものだった。それ